

平成30年度第1回青梅市協働事業市民推進委員会議事録

平成30年5月9日

206会議室

午前10時～

出席委員7人 欠席委員3人

1 あいさつ

市民安全部長

委員長

2 報告事項

(1) 青梅市市民提案協働事業について

事務局より報告

(2) 平成30年度市民提案協働事業応募状況について

事務局より報告

委員：単年度でなく、複数年での事業は可能か？3年、5年先継続した事業としたい。

事務局：要綱で単年度での会計報告、事業報告となっている。

委員：提案事業が終了した後、次年度以降市の事業として展開していけるか？

事務局：過去、そのまま事業として継続しているものに生ゴミたい肥化事業、おそきだより発行など。形をかえて発展、継続しているものにH24エコクラブ、H27ママニコットなどがある。

委員：複数年の制度は、羽村市などでも実施している。今後検討していただきたい。

委員：かぶかぶ山のようちえんの活動場所は？

事務局：おうめの森ムササビ広場、釜の淵公園、雨天時は永山ふれあいセンター等となっている。

委員：まだ新しい法人だが、保育士さんお母さん方が活発に活動している。前経歴あり活動ノウハウがある。

委員長：若い世代、若い母親など元気に思えるが、市民活動団体、ボランティアのすそ野は広がっているのか？

委員：新規あり、また高齢化での解散あり、一進一退である。

委員：3世代先につなげる里山生活協議会団体の活動内容等を教えてほしい。

委員：成木の山の整備や里山整備、木工などを行っている。

風の子太陽の子広場の設備が傷んでいるが、山の管理の農林課、風の子太陽の子広場担当のスポーツ推進課と、壁がある。管理を担当する課が違うというのは市民にはわからないので、うまく連携し、市民活動団体が活動しやすい環境を作っていただきたい。

委員：サッカー協会と卓球協会の提案は、市民協働事業の提案としてはいかがなものか？

事務局：提案事業として応募を受け付けた状況であり、これから一次審査、二次審査と総合的審査で採択の決定を市長が行う。

### (3) その他

委員：子ども食堂は今後広がっていくのか？

委員長：青梅で第1号の子ども食堂の開設に委員として携わった。社会福祉法人が地域の社会貢献事業として開始したことがきっかけである。

食べられるだけでなくほっとする場が必要。1日30食、現在7人登録している。

委員：青梅市は老人ホームが多いのが特徴なので、社会福祉法人が取り組む子ども食堂が今後広がっていくとよいと思う

## 3 協議事項

### (1) 市民協働事業審査委員の選出について

事務局：市側からは星野市民安全部長、山宮防災課長、吉崎市民活動推進課長の3名。委員会の中から4名選出をお願いしたい。

・川崎由保委員　・若林良弘委員  
・宮口　泉委員　・池永喜代美委員　　4名選出。

### (2) 平成29年度青梅市協働事業市民推進委員会意見まとめについて 事務局より説明

委員：推進会議へ委員長が出席したほうがよいのではないか、文

書提出も持参したほうが良いと思う。

事務局：30年度の実施に向け検討、29年度は内容をまとめ委員に通知する。

#### 4 その他

委員：東青梅市民センター閉鎖、移転について、反対署名などが行われている。

委員：新市民ホールなど新施設構想に市民の声が反映できないか？

事務局：新施設はまだ案であり、構想段階である。民間運営の方向で今後パブコメなども取り入れて決定していくものと思われる。

委員：今回の組織再編は、地域の安全安心優先、市民活動は一步引いた形であるのか？

事務局：今年4月の組織再編で、市民部から市民安全部へ、防災・安全安心を優先し、災害時に避難場所等となる市民センターと防災が一つの部になることで、より連携が図れる。決して、市民活動から引いたわけではなく、更に各種団体との連携を図り、市民活動の活性化に取り組むことを目的としている。